

	新潟国内イマージョン研修
1 報告者	遠藤摩樹主幹教諭 西山恵美子教諭
2 日時	11月4日(土)～5日(日)
3 場所	国際大学(新潟県)
4 参加者	1年生 30名
5 講師	<b>Dr. Mohammed K. Ahmed</b> 教授 <b>Dr. Michael Mondejar</b> 教授
6 目的	スーパーグローバル大学創生支援に採択された国際大学は、国際的なビジネス経験を持つ留学生が9割を占める大学院大学である。その国際大学にて、外国人教授による英語の授業、外国人ファシリテーターとのディスカッションを通して英語力を強化し、多様な文化、価値観への理解を深めてグローバルな視点を養い、グローバルな課題と取り組んで思考力・判断力・表現力を鍛え、グローバル・リーダーとしての資質・能力を育成する。
7 活動の概要	<p>11月4日(土)</p> <p>①オリエンテーション</p> <p>②講義「Cross Cultural Communication」 Dr. Mohammed K Alhmed</p> <p>③キャンパスツアー</p> <p>④研修 本日の振り返り、Thank you Card作成</p> <p>11月5日(日)</p> <p>①講義「Socializing」 Dr. Michael Mondejar</p> <p>②Farewell Party 教授、ファシリテーターとの交流、情報交換</p>
8 活動内容	<p><b>事前学習</b></p> <p>9月20日(水) 研修内容と今後の流れを説明する。</p> <p>10月20日(金) しおりに基づいて行程等の確認を行う。</p> <p style="padding-left: 40px;">Cross Cultural Communication についての課題を英語で説明する。</p> <p>11月1日(水) 集合場所、行程等の最終確認を行う。</p> <p style="padding-left: 40px;">Cross Cultural Communication の課題について、英語によるディスカッションとプレゼンテーションを行う。</p> <p><b>11月4日(第1日目)</b></p> <p>東京駅集合 上越新幹線にて浦佐へ</p> <p>■オリエンテーション</p> <p>国際大学(IUJ)到着後、スーパーグローバル大学推進室を訪問し、国際大学の概要について説明を受ける。</p> <p>■講義「Cross Cultural Communication」</p> <p style="padding-left: 40px;">Dr. Mohammed K Alhmed</p> <p>講義室にて、Dr. Mohammed K. Ahmed 教授のリードで、生徒2名のチームに外国人ファシリテーターが1名ずつついた15チームに分かれてすべて英語で実習を行う。ファシリテーターは10か国15名、それぞれ母国および欧米の大学を卒業後、国際社会でのビジネス経験を持つ大学院研究生である。</p> <p>○アイスブレイク</p>



教授が考えた表現 “Super Happy Energetic Prodigiously Productive!” を起立して大げさに叫ぶことでリラックスできた。アイスブレイクを通して、ジェスチャーを用いたアピールの仕方、引き込み方の大切さを学んだ。

#### ○トレーニングセッション

教授が講義をしながら、生徒に質問を投げかけ、生徒は気づいたことや意見を発表していく講義スタイルである。教授の問いかけに、生徒は、ファシリテーターと話し合い、要点をまとめて、前に出て発表した。

#### ディスカッション1

3種類の文化 “Multi-active”、“Linear-active”、“reactive” について討論する。文化の違いが行動に現れることを知る。日本は “reactive”。

#### ディスカッション2

「握手」の文化と「お辞儀」の文化の背景を考える。

#### ディスカッション3

国によって大切にしているものの違いを考える

#### ディスカッション4

氷山のイラストを使って「目に見える文化」と「目に見えない文化”Deep Culture”」を考える。

#### ○ディスカッション結果の発表に対する教授の評価と解説

人との関わりを食品（アメリカ人：ポップコーン、日本人：納豆）に例えて、文化の背景にある価値観の違いを統計に基づいて説明する。

#### ■ キャンパスツアー

生徒2名のチームに外国人ファシリテーターが1名ずつついた15チームで、キャンパス内を英語で案内された。教室、図書館、体育館、トレーニングルーム、PC室、24時間オープンな学習スペース、グループ談話室、寮等をまわった。寒気と雨のため、屋外に長時間出ることとはできないが、雪景色の八海山が向こうに見える緑豊かなキャンパス。冬には約3メートルの積雪になりアジア、アフリカ各地からの留学生はとても驚くという話を聞く。キャンパス内には学生寮、家族寮もある。

#### ■ 宿舎での研修

#### ○授業の振り返り

振り返りシートに1日目の学びと感想をまとめた。

#### ○翌日のフェアウェルパーティーでお世話になった教授、ファシリテーター、スタッフに渡す Thank you card を作成した。

#### ○フェアウェルパーティーで歌うお礼の歌

「上を向いて歩こう」を練習した。



## 11月5日(第2日目)

### ■講義 「Socializing」 Dr. Michael Mondejar

講義室にて、Dr. Michael Mondejar 教授のリードで、生徒3名のチームに外国人ファシリテーターが1名ずつついた10チームに分かれてすべて英語で実習を行う。

#### ○アイスブレイク

生徒3名と外国人ファシリテーター1名のチームごとに英語で自己紹介等のフリートークを行う。

#### ○トレーニングセッション

教授がリードして、次々とチームのメンバーをローテーションして、生徒は多くの外国人ファシリテーターと会話実習を行う。ファシリテーターの多くは、グローバル企業等での国際ビジネス経験を持ち、国際社会での実用的なコミュニケーションを指導していただいた。

#### ディスカッション1

文化の違う初対面の人との会話で、会話をスムーズにするトピックと避けるべきトピックを討議する。

#### ディスカッション2

相づち、アイコンタクトなどのリアクションのテクニックを考える。

#### ディスカッション3

質問と答えのバランスを考える。

#### ディスカッション4

会話の自然な始め方と終わり方を考える。

#### ○ディスカッション結果の発表に対する教授の評価と解説

1日目の異文化コミュニケーションを土台に、違う文化を持つ人々との実践的な会話のマナーとテクニックについて解説する。

### ■フェアウェルパーティー

世界各国の料理をいただきながら、生徒達は、教授や2日間お世話になったファシリテーターの方々と積極的に会話を楽しんでいた。手作りの Thank you card を感謝のことばとともに渡していた。

生徒代表がお礼の言葉を述べた後、生徒全員で「上を向いて歩こう」を合唱した。

### ■国際大学からの帰路

ファシリテーター、スーパーグローバル大学推進室職員に見送られつつ国際大学を去り、新幹線車内で振り返りを行いながら帰途につく。



## 9 成果と所感

英語を公用語とする国際大学で、生徒たちは多国籍の方々との交流を通して、英語力の向上だけでなく、多様な文化、価値観を理解し、グローバルな視点を養うことができた。

Ahmed 教授、Mondejar 教授の講義では、異文化コミュニケーションやソーシャライジングをテーマに様々な事象にあたり、異文化への理解を深めただけではなく、一つのものごとを様々な視点で捉えることを体験した。また、外国人ファシリテーターと一緒に学ぶことで、グローバルな価値観を実感することができた。教授とファシリ

テーターの方々の丁寧なご指導とご支援に感謝したい。

また、グループ単位でのキャンパスツアーやフェアウェルパーティーでは、生徒の質問に教授やファシリテーターの方々が丁寧に答えくださり、生徒たちはそれぞれの出身国の文化や課題と日本の課題などについて気づき、理解を深めた。

今回の研修は大変有意義なものであり、今後も継続できることが望ましい。